



ステップファミリーへの支援について

質疑のポイント

- ☑ 結婚・再婚・事実婚によって、血縁関係のない親子関係が生まれた家族のことを「ステップファミリー」といい、親子関係を構築する難しさが指摘されている。
- ☑ 強い「しつけ」から虐待などの課題が生じやすい傾向にあり、他都市では支援冊子を作成し、窓口での配布や職員研修など、積極的な取り組みが行われている。
- ☑ 神戸市における「ステップファミリー」支援の考え方はどうか。

○副市長：こども家庭支援センター等において、様々な子育ての相談に対応しているが、ステップファミリーの相談者には特有の課題があることを念頭に置いている。他都市の例も参考にしながら、寄り添った丁寧な支援をしていく。

○いさやま：啓発冊子を窓口等で配布することにより、事前の心構えを促して突発的なストレスを回避できる。支援団体の連絡先を示すことで、同じ境遇どうして交流できることなど、相談窓口に来る前の段階でのサポートも必要である。

多拠点型移住およびワーケーションの推進について

都市部と自然環境が近接している神戸の優位性を活かし、「多拠点（ノマド）移住者」を呼びこむ施策と、ワークとバケーションを組み合わせた「ワーケーション」が定着できるものと考えます。また、徳島県では区域外就学制度の利用した「デュアルスクール」という政策を取り入れ、住民票を移動しなくても県内の学校に通学できるようにして、短期的移住を促進しています。まずは、里山移住と六甲山スマートシティ構想の進捗状況を伺い、次に、デュアルスクールの要素を取り入れた「多拠点型移住およびワーケーション」について、質疑しました。



▶ 令和2年12月 一般質問

「六甲山上スマートシティ構想の取り組み状況では、企業保養所などの遊休施設を活用して、IT企業やクリエイターなどが利用する自然調和型のレンタルオフィス等の誘致を進め、また、宿泊可能なワーケーションオフィスの機能を備える山上のビジネス交流拠点『共創ラボ』を来年に開設する予定。里山居住については、農村の定住促進コーディネーターの設置や空き家バンクの開設などの環境作りに努めた結果、83件の移住企業があった。また、家族を連れて一時居住する働き方が、選択肢として普及するものと思われる。『デュアルスクール』に関しては、他都市の事例を勉強し、教育委員会として市長部局と連携してどのように役割を果たしていくべきか、考えていく。」とのことです。

□ 神戸市立ポートアイランドスポーツセンター（PISC）建て替えへ

- ▶ 平成27年11月議会的一般質問において、開設から40年がたち設備が老朽化しているPISCの建て替えを主張し、毎年、要望して参りました。
- ▶ 2021年度内に新施設の基本計画を策定したのち、設計・工事を進めることが、この度の議会において示されました。夏季の50mプールに関しては、8レーンしかないため全国規模の大会誘致ができないこと、通年利用できる25m温水プールが競技仕様になっていないことが長年の課題でありました。冬季のスケートリンクの仕様を含めて、「関係者の意見を踏まえて、新しい施設の内容を検討したい」とのことです。



▶ ポートアイランドスポーツセンター